

日 本 繁 殖 生 物 学 会

1 学会名：日本繁殖生物学会
(Society for Reproduction and Development)

2 事務所所在地：
〒305-8602 茨城県つくば市観音台2-1-2
（独）農業生物資源研究所
E-mail info@reproduction.jp
URL http://reproduction.jp/index-j.php

3 目的：
飼育動物、野生動物など主として脊椎動物の繁殖に関する学術研究を振興すること、並びにその成果の普及を図ることを目的とする。

4 組織：
理事長：前多敬一郎（東京大学）
常務理事：菊地和弘（庶務，農業生物資源研究所）
吉澤 緑（会計，宇都宮大学）
柏崎直巳（渉外，麻布大学）
小倉敦郎（企画，理化学研究所）
長嶋比呂志（編集，明治大学）
理事：20名
評議員：50名
会員：850名（アドバイザーボード，寄贈団体，編集委員を含む）
(2013年5月現在)

5 沿革：
1948年に本会の前身である家畜繁殖研究会が設立されて以来，60年以上の歴史をもつ学会である。海外の同様の学会である Society for the Study of Fertility（英国）が1950年に，Society for the Study of Reproduction（米国）が1967年に設立されたのに鑑みれば，本会が世界的に見て繁殖・生殖の学問分野で古くから先導的役割を果たしてきたことがわかる。

会誌 Journal of Reproduction and Development は，2012年で第58巻を刊行した。本誌の前身の家畜繁殖研究会誌は第1巻が1955年に刊行されたが，その後時代のニーズに応えながら世界でも有数の学術雑誌に成長しつつある。



公募によりロゴマークを制定（2013年）

6 活動内容と特色：
本会は会員数850名を数える学術会議登録団体であり，会員の研究内容も多種多様にわたる。性と生殖に関する現象とそのメカニズムに関する研究とそれら基礎的知見を応用した人工繁殖に関するさまざまな技術開発が行われている。古くは人工授精や受精卵移植から近年の遺伝子導入動物やクローン動物に至るまで，本会会員が主導的な役割を果たしてきた。

現在では，年に1回の学術集会及び総会を開催している。学術集会では，会員の一般講演をもっとも重視しつつ，学会内外からの講演者を招いたシンポジウム等も開催し，会員相互の情報交換と他の学術分野との交流を行い，繁殖生物学の新たな発展を生み出しつつある。また，総会では毎年，顕著な業績のあった数名の会員に学術賞，技術賞，奨励賞を授与している。本学会における若手会員の活動は特に活発で，若手奨励策検討委員会ではシンポジウムはじめとしてさまざまな企画を実施しており，会員の多様性を増す上で大きな力となりつつある。

会員には正会員と学生会員，シルバー会員，名誉会員の4種類があり，会員の推薦があれば，いつでも正会員あるいは学生会員となれる。正会員には学会誌が送付される。詳しくはホームページ上でご確認されたい。

7 文責者：前多敬一郎（東京大学）
菊地和弘（農業生物資源研究所）